

科目名	暮らしの人類学		コード	G120600				
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期				
講義	選択	2	1・2	前期				
担当者名	安溪 遊地							
授業概要	日本のさまざまな近未来を考える。過去に目を閉ざせば現在にも盲目となる(ヴァイツゼッカー『荒野の40年』の言葉)だけでなく、未来などわかるはずもない。熱帯アフリカの森・ケニアの都会・パリ・スペインの田舎町で暮らしたグローバルな視点と、山口に居をさだめて、自給と循環を模索するローカルに徹した視点から、受講生とともに考えてみたい。授業ではマスコミの報道しないさまざまな可能性について主体的に発言、行動してきた生活者、学者を取り上げ、その位置づけを考察し、討論しながら、いま足下から自らの暮らしを変えるためのヒントをつかむ。宮本常一・國分直一・重源上人など、山口ゆかりの学者・僧などについても、基礎的な認識をもってもらいたい。							
到達目標	自分がタイタニック号の乗組員だと想像して、近づいてくる氷山に気づいたとする。はたして日常のルーチンを離れて船を止める！とさげふ知恵と力があるだろうか。それを自らに問い、的確に判断できる力をつける。			成績評価の方法と基準	さまざまな近未来の可能性を冷静に考えて、ありきたりでない豊かなアイデアをどこまで出せるか。それを実現可能なものにする意欲は。			
学習目標	評価項目と割合							
具体的学習目標	配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 自らの暮らしにひそむさまざまな危険に気づく	20	20	0	0	0	0	0	0
(2) 自らの暮らしを変革するアイデアを学ぶ	50	10	0	20	20	0	0	0
(3) 山口ゆかりの学者の業績のあらましを知る	10	0	0	10	0	0	0	0
(4) わかりやすく伝える力を身につける	20	0	0	0	10	10	0	0
授業の項目と内容	自主学習課題							
(1) なぜいま「暮らし」を問うのか	QOLやLOHASを越えて							
人間中心・科学技術至上の思想を背景に成長してきた文明が立ち至った様々な困難。我々は、いま滅びの淵に立っているのではないか。	QOLについて復習。LOHASとはなにか調べ、日本ではこれが商標登録されていることとその背景を考える。							
(2) 安くて・簡単に・便利で・美しく・味が濃ければそれでいいのか	安部司の問いかけ							
一日10グラムをこえる添加物をとり続ける日本人。食品の安全をもとめるけれども、高いお金を出すのはイヤ。私たちの4人に3人はそんな分裂人間だ。	山口大学を卒業してから「添加物の神様」の異名をとった安部司『食品の裏側』(実業経済新報社)を読み、その日あなたが口にしたものを思い返してみよう。							
(3) 日本列島で1億5000万人が食糧自給できる	津野幸人の学問・生活・意見							
耕すことは、政府がなんといおうと国民の基本的権利である。安溪家では、鳥取の大山のふもとで津野先生に再生紙マルチ稲作をならって15年、米を買ったことはない。	カドミウム汚染米の田んぼにケイ酸カルシウムを大量にまくという処方がある。しかしこの商品は溶鉱炉のスラグからつくられ、カドミウムを含んでいる。調べてみよう。							
(4) 耕さず、草もとらず、農薬もまかない	川口由一の自然農							
農薬で体をこわした経験から、川口由一は耕さない農法で稲を育て、いまは奈良・赤目の農場にたくさんの人たちが学びに来るようになった。	世界には、福岡正信『自然農法 わら一本の革命』(春秋社)に影響された人は非常に多いが、その農法をそのまま実践できた人が彼しかいないという。なぜだろうか。							
(5) 調査というものは地元民の人の良さを利用して略奪するものが多い	宮本常一の自省							
プライバシー・肖像権・著作権・著作隣接権の侵害などに配慮することの重要性。「調査地被害」される側のさまざまな迷惑」を読む。	「人が救われるなら学問で救われる。滅びるならば学問でほろびる」という南の島のおばあちゃんの言葉に耳を傾ける。							
(6) 出過ぎる杭は打たれない	村田和子・久の企業内告発の歩み							

三菱化成(現在の三菱化学)によるマレーシア・ブキメラ村の放射能汚染を知ったとき、そこに働いていた村田和子・久夫妻の選んだ道は。	自分の会社の社会的な不正行為を知ったとき、自分はどう行動するだろうか。考えてみよう。
<b>(7) 市民科学者として生きる 高木仁三郎の残したもの</b>	
原子力産業で働き、その限界を知った高木仁三郎は、NGO「原子力資料情報室」を立ち上げ、日本政府のプルトニウム利用計画を批判した。	御用学者に負けない市民科学者が生まれることを願う高木基金と高木学校の活動について、ウェブ上で調べてみよう。
<b>(8) エコノミー・エコロジー・エントロピー 玉野井芳郎の地域主義の思想</b>	
東大の経済学教授を退官して沖縄に移住した、柳井市出身の玉野井芳郎は、既存の経済学が見落としてきたエントロピーなどに注目して、新しい実践的な学問を構想した。	イバン・イリイチ著、玉野井芳郎訳『シャドウ・ワーク』(岩波)など、玉野井の著作を読み、柳井市での朝市の復活を励ました玉野井の足跡を知る。
<b>(9) 神田川の水が飲めるように・原発廃絶・憲法第九条を世界の憲法に 山尾三省の遺言</b>	
湯谷町出身の山尾三省は、屋久島山中の廃村に移り住み、小さな畑と祈りと詩作の日々を過ごし、そこは新しい村となった。末期ガンでの死を目前に文明再生の希望を語る。	Bioregionalism(生命地域主義、流域の思想)という考え方を、ゲイリー＝シュナイダーと山尾三省、ピーター＝パーグなどの著作で学ぼう。
<b>(10) 先史学への情熱 國分直一、人と学問</b>	
晩年を山口で過ごした國分直一は、考古・民族・民俗・人類学を専攻範囲として旺盛な研究活動を続けた。綾羅木郷遺跡が開発で破壊されたとき、彼はどう動いたか。	國分直一著、安溪遊地、平川啓治編、2006『遠い空、國分直一、人と学問』海鳥社をよんでみよう。
<b>(11) 文化の保護者か自然の破壊者か 俊乗房重源(ちょうげん)の偉業</b>	
61歳で東大寺再建の責任者となった重源上人は、周防国国司となって徳地の巨木を奈良に運ぶ。その足跡は800年後の今も、昨日のこのように語り継がれている。	山口市徳地で伝承される重源の足跡の記録を読み、機会をみて徳地の「重源の郷」を訪ねるなどしてみよう。
<b>(12) 役目なしに天の国からおろされたものはない 萱野茂の生涯</b>	
アイヌ民族の尊厳をかけて、はじめての国会議員となった萱野茂エカシ(長老)が、日本人社会にぶつけたチャランケ(建設的討論)の数々。	萱野茂の著作をいくつか読んで、「同じ日本人として憲法のもとで平等だからアイヌ民族は先住権を主張したりできない」という萱野綾子らの主張と比べてみよう。
<b>(13) 地球と地球人の映像を撮る 龍村仁の仕事</b>	
市民による上映活動で「ガイアシンフォニー・地球交響楽」(現在第6番まで製作)という映画をつくってきた映画監督が出会ったさまざまな不思議な出会い。	ガイアシンフォニーを1つ選んで、安溪研究室のDVDで見てみよう。
<b>(14) 今なにが必要なのか、何ができるのか(1)</b>	
暮らしを変えることで、自分の足下がどこまで変わることができるか、実践経験を含めてあらためて検証してみよう	レポート作成の準備。「いま足下から私の暮らしを変えるために」が共通テーマです。自由な発想でいくつか具体的タイトルを考えて、相談してください。
<b>(15) 今なにが必要なのか、何ができるのか(2)</b>	
豊かで自由な「個人運動」がローカルな動きとなり、グローバルな変革につながっていくためには、何が必要か、自由に討論しあってみよう。	レポート作成。2000字以上で、講義終了2週間以内に提出。
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
安溪遊地編、2004『やまぐちは日本一 山・川・海のことづて』弦書房 安溪遊地編、2006『続やまぐちは日本一 女たちの挑戦』弦書房	レポートは、気づき(自分や自分の社会のこととして実感をもって受け取る力)と学び(具体的知識とその正確さ)と表現力(わかりやすく上手に伝える能力)で評価。地元の大学院って案外面白そう、と思う人を増やしたい。受講者の紹介があれば、地域の人にも学部生にも無料で公開していますから、知人や後輩を時々つれてきてください。
<b>受講生へのメッセージ</b>	
教えるとは希望を語ること。学ぶとは誠実を胸に刻むこと(フランスの詩人ルイ・アラゴンの言葉)。	